

令和元年度ビジネス実務学科FD・SD研修会実施報告

目 的 ビジネス実務学科の学位プログラムレベルと科目レベルで学修成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）することにより、教育の改善を図る。

日 時 令和2年3月6日 14:40～16:10

場 所 A135

出席者 加藤博、井戸、越野、瀬戸、廣瀬、藤元、若月

欠席者 井上

講 師 藺森、瀬戸、矢澤

1 科目別評定（S～D）の分布状況とGPAから見る評価の妥当性（矢澤）

令和元年度後期の成績を元に、各科目のGPAと履修者数の散布図、およびS判定率と履修者数の散布図から、評価の妥当性について議論をした。本学における成績評価は、絶対評価であるが、S評定を乱発しすぎてしまえば5段階評価を導入した意図とは異なる。ただし、「Sは～%以内」と決めつけてしまうことは、相対評価に陥ってしまう危険もある。

散布図から、履修者数が多い(100人規模)の場合は、S評価の割合が10%程度に落ち着いていくことから、「Sは10%」程度をめざすものの、少ない履修者の場合は誤差が大きいという認識でよいのではと提案した。また、GPAの分布状況からは、大人数履修者の場合2.5～2.8程度におさまっていることから、科目としては履修者全員がA（優）＝平均GPAが3をめざす授業を展開してはどうかと提案した。つまり、全員にAをとってほしい授業展開をしつつ、その中で突出した学生がSを獲得していくことで、Sを乱発しないようにすること、大量に可や不可を出す科目は内容・教授方法を見直すべきであること、という内容である。ただし、それぞれの科目の特殊性や履修者の傾向による誤差はあるので厳密に数値でしぼるというものではないという認識で一致した。

2 授業アンケートにおける学科別評価ポイントの比較（藺森）

令和元年度前期・後期授業アンケートにおける項目別評価結果について、資料に基づき、3学科間の比較を行った。

まず、総合評価を見ると、前期の評価結果については、Q10「総合的に見て、この授業は良かったですか？」の問いに対して、ビジネス実務学科のポイントが4.3であったのに対し、美術学科、幼児教育学科はともに4.5であり、ビジネス実務学科は0.2ポイント低い結果となっている。また、後期の授業アンケートについても、Q10のビジネス実務学科のポイントが同じく4.3であったのに対し、美術学科、幼児教育学科はともに4.6であり、ビジネス実務学科は0.3ポイント低く、差が大きくなっている。

次に、他の項目を比較すると、Q4「聞き取りやすさ」、Q5「板書等」についても、ビジネス実務学科のポイントは前期・後期とも他学科より0.1～0.3ポイント低くなっている。特に、他学科との差が大きかったのは、Q3「さらに学びたいと思いますか？」についてであり、前期・後期ともに、美術学科と比べ0.3ポイント、幼児教育学科と比べ0.4ポイント低くなっている。

このように他学科と比べ評価が低くなっている項目等について、意見交換を行うとともに、

今後、この結果を踏まえて、授業内容が学生のニーズに合っているのかも含めて検討し、カリキュラムの改訂や授業改善を行っていく必要があるとの認識で一致した。

3 クラス合同授業の改善について（瀬戸）

今年度、実施された複数クラス合同授業（キャリアデザイン演習、情報科学、秘書実務、ビジネス実務など）ではトラブルが発生した授業があった。

例えば、私語がうるさく授業の内容がよく聞こえなかったという学生アンケート結果や、遅刻・早退などの把握ができていない授業が報告されていた。そこで、授業改善に向けて次のような項目の意見交換を行った。

1) 出欠確認を確実に行う工夫

- ・まず、学生氏名をはっきりさせるため、ネームプレートを使用してはどうか。
- ・(各クラス) 座席指定をして、クラス担任が参加している授業は出欠や退室などの把握を行う。

2) 学生が集中できる授業を目指すための工夫

- ・外部講師を招聘した際に、授業改善のため「ビデオ撮り」を宣言してはどうか。
- ・キャリアデザインなどの授業レポートを感想だけでなく、内容を的確に報告するように再度フォーマットを検討してはどうか。
- ・1行程度の感想は受け取らず、きっちりと書かせるよう指導してはどうか。

まずは、教員の一致団結でいろいろな対策を検討する必要性があることを実感した。

